

【共通の設問】修辞法を答えよ。(答え・解説は解答編)

【第1部】基礎編 (Q1～Q20)

Q1.

あしひきの山鳥の尾の…

Q2.

ひさかたの光のどけき春の日に…

Q3.

たらちねの母…

Q4.

くさまくら旅にしあれば…

Q5.

ちはやぶる神代もきかず竜田川…

Q6.

しろたへの衣干したり…

Q7.

風吹けば沖つしらなみたつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

Q8.

夢と知りせば覚めざらましを

Q9.

花の色はうつりにけりないたづらに我が身世にふるながめせし間に

Q10.

あらざらむ此の世のほかの思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな

Q11.

あらたまの年の暮れになりにけり…

Q12.

あをによし奈良の都は…

Q13.

わかくさの妻…

Q14.

ぬばたまの黒髪…

Q15.

春過ぎて夏来たるらししろたへの衣干すてふ天の香具山

Q16.

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしや

Q17.

たまきはる命を…

Q18.

散りぬともかねてぞ惜しき紅葉葉

Q19.

月やあらぬ春や昔の春ならぬ我が身ひとつはもとの身にして

Q20.

桜散る木のしたかぜは寒からでそらに知られぬ雪ぞふりける

【第2部】標準編（Q21～Q50）

Q21.

あかねさす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る

Q22.

からごろも着つつなれにし妻しあれば…

Q23.

あづさゆみ春の山辺を越え来れば…

Q24.

み吉野の山の白雪つもるらしふるさとさむくなりまさるなり

Q25.

立ちわかれいなばの山の峰に生ふるまつとし聞かば今帰り来む

Q26.

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立

Q27.

心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花

Q28.

風そよぐならの小川の夕暮れはみそぎぞ夏のしるしなりける

Q29.

君がため春の野に出でて若菜つむ我が衣手に雪は降りつつ

Q30.

しのぶれど色に出でにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで

Q31.

来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに焼くやもしほの身もこがれつつ

Q32.

田子の浦にうち出でて見ればしろたへの富士の高嶺に雪は降りつつ

Q33.

あけぼのぞ春のあはれと知らるらむ

Q34.

思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを

Q35.

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶる事の弱りもぞする

Q36.

春の夜の夢の浮橋とだえして峰にわかるる横雲の空

Q37.

心なき身にもあはれは知られけり鳴立つ沢の秋の夕暮

Q38.

見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮

Q39.

さびしさはその色としもなかりけり槇立つ山の秋の夕暮

Q40.

久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ

Q41.

夕されば門田の稲葉おとづれて葦のまろ屋に秋風ぞ吹く

Q42.

風をいたみ岩うつ波のおのれのみ碎けてものを思ふ頃かな

Q43.

嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なるわが涙かな

Q44.

山里は冬ぞさびしきまさりける人目も草もかれぬと思へば

Q45.

滝の音はたえて久しくなりぬれど名こそ流れてなほ聞こえけれ

Q46.

千早ぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは

Q47.

吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風を嵐といふらむ

Q48.

あひ見ての後の心にくらぶれば昔は物を思はざりけり

Q49.

由良のとを渡る舟人かぢをたえゆくへも知らぬ恋の道かな

Q50.

八重むぐら茂れる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

Q51.

月見れば千々にもものこそ悲しけれわが身ひとつの秋にはあらねど

Q52.

このたびは幣もととりあへず手向山紅葉の錦神のまにまに

Q53.

名にし負はばあふさか山のさねかつら人に知られでくるよしもがな

Q54.

小倉山峰のもみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆき待たなむ

Q55.

君がため惜しからざりし命さへながくもがなと思ひけるかな

Q56.

山桜霞のまよりほのかにも見てし人こそ恋しけれ

Q57.

風吹けば沖つしらなみたつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

Q58.

思ひかね妹がりゆけば冬の夜の川風寒み千鳥なくなり

Q59.

春の夜のやみはあやなし梅の花色こそ見えね香やはかくるる

Q60.

山深み春とも知らぬ松の戸に絶え絶えかかる雪の玉水

Q61.

駒とめて袖うちはらふかげもなし佐野のわたりの雪の夕暮

Q62.

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶことの弱りもぞする

Q63.

ほととぎす鳴きつる方を眺むればただ有明の月ぞ残れる

Q64.

いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重ににほひぬるかな

Q65.

朝ぼらけ宇治の川霧たえだえにあらはれわたる瀬々の網代木

Q66.

もろともにあはれと思へ山桜花よりほかに知る人もなし

Q67.

高砂の尾の上の桜咲きにけり外山の霞たたずもあらなむ

Q68.

憂かりける人をはつせの山おろしよはげしかれとは祈らぬものを

Q69.

契りおきしさせもが露をいのちにてあはれ今年の秋もいぬめり

Q70.

嵐吹くみむろの山のもみぢ葉は龍田の川の錦なりけり

Q71.

寂しさにやどを立ち出でて眺むればいづくも同じ秋の夕暮

Q72.

夕されば門田の稲葉おとづれて葦のまろ屋に秋風ぞ吹く

Q73.

音にきく高師の浜のあだ波はかけじや袖のぬれもこそすれ

Q74.

高砂の松も昔の友ならなくに

Q75.

あはれともいふべき人は思ほえて身のいたづらになりぬべきかな

Q76.

由良のとを渡る舟人かちをたえゆくへも知らぬ恋の道かな

Q77.

めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲がくれにし夜半の月かな

Q78.

有馬山みなな笹原風吹けばいでそよ人を忘れやはする

Q79.

夜をこめて鳥のそらねははかるともよに逢坂の関はゆるさじ

Q80.

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

Q81.

春の夜の夢の浮橋とだえして峰にわかるる横雲の空

Q82.

駒とめて袖うちはらふかげもなし佐野のわたりの雪の夕暮

Q83.

み吉野の山の秋風小夜ふけてふるさと寒く衣うつなり

Q84.

苦しくも降りくる雨か三輪の崎佐野のわたりに家もあらなくに

Q85.

玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶる事の弱りもぞする

Q86.

見せばやな雄島のあまの袖だにもぬれにぞぬれし色はかはらず

Q87.

きりぎりす鳴くや霜夜のさむしちに衣かたしきひとりかも寝む

Q88.

我が袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそしらね乾く間もなし

Q89.

世の中は常にもがもな渚漕ぐあまの小舟の綱手かなしも

Q90.

み吉野の山の白雪つもるらしふるさとさむくなりまさるなり

Q91.

心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな

Q92.

朝ばらけ有明の月と見るまでに吉野の里にふれる白雪

Q93.

浅茅生の小野の篠原しのぶれど余りてなどか人の恋しき

Q94.

嘆きつつひとり寝る夜のあくる間はいかに久しきものとかは知る

Q95.

めぐりあひて見しやそれともわかぬまに雲がくれにし夜半の月かな

Q96.

やすらはで寝なましものをさ夜ふけてかたぶくまでの月を見しかな

Q97.

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立

Q98.

今来むといひしばかりに長月の有明の月を待ち出でつるかな

Q99.

あらしふくみむろの山のもみぢ葉は龍田の川の錦なりけり

Q100.

来ぬ人をまつほの浦の夕なぎに焼くやもしほの身もこがれつつ